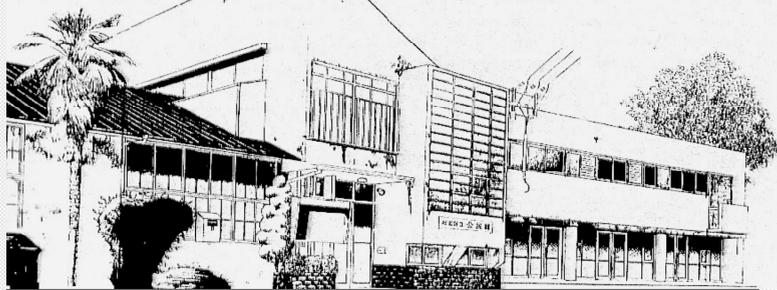
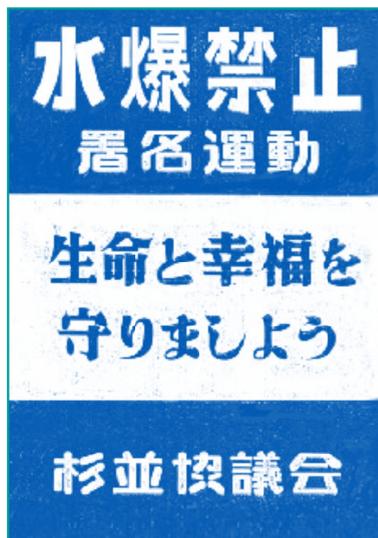


1954.3.1 ビキニ被爆

原水禁署名発祥の地・杉並



署名運動の中心となった杉並公民館(上) 署名をよびかけたポスター(右)



草の根の運動から始まった

1954年3月1日、アメリカのビキニ環礁での水爆実験による第五福竜丸の被爆を契機に、杉並から始まった原水爆禁止署名運動は燎原の火のごとく広がり、1955年広島での原水爆禁止世界大会開催へと結実しました。

この署名運動は、広島・長崎の被爆者にも大きな影響を及ぼしました。40年にわたり杉並光友会の会長を務めた尾崎守夫さんは「私たちは被爆以後全く放置されてきた。会を組織して第五福竜丸の乗組員のように、国に対して治療をさせるような運動を始めようじゃないか」と、第1回原水爆禁止世界大会東京大会に被爆者代表として参加しました。原水爆禁止と被爆者援護は両輪一体のものとして位置づけられました。そして、1958年杉並光友会は、原水禁署名運動のセンターでもあった公民館で結成総会を開催しました。



1954年 山と積まれた署名 杉並公民館

これらの運動は、区民10万の署名を集めた非核平和都市宣言の請願運動へと引き継がれました。尾崎さんを中心として区在住の松本清張氏などの著名人も呼びかけ人となり、1988年、杉並区は「平和都市宣言」を行いました。5年9ヵ月のねばり強い運動の成果でした。2012年には「平和市長会議」に加盟しました。

戦後・被爆70年にあたる2015年の第9回核不拡散条約(NPT)再検討会議は、米・英・加の反対で最終文書を採択できませんでした。しかし、この会議の中で、国際NGOの活動により112ヵ国(7/2現在)の政府が核兵器禁止のために市民社会と協力して努力するとの『人道の誓約』に賛同しました。

杉並の原水爆禁止署名運動の水脈は、今も脈々と核兵器の非人道性の告発と法的拘束力を追求しようとする世界の流れに連なっています。



2012.2.19 原発いらない杉並集会

杉並光友会...杉並区の被爆者団体

平和都市宣言...杉並区の宣言文は「ここに杉並区は核兵器のなくなることを願い、平和都市を宣言する」と結んでいます。

平和市長会議...1982年広島市長の呼びかけで設立され、2020年までの核兵器廃絶を目指しています。135の国と地域、5238の自治体が加盟しています。(2013年8月から「平和首長会議」と名称が変更されました。)



公民館跡に建てられた「オーロラ碑」
杉並区荻窪3-47-2

ガイドブック「杉並の戦争と平和」
B6判 128ページ 1000円 申込み 左記へ

子どもたちに平和で安全な21世紀を

米ソの冷戦のなかで核開発競争の激化は、ついにビキニ環礁での水爆実験へと突き進みました。原水爆実験反対の署名運動発祥の地となった杉並。この運動をしっかりと継承し、地上から核兵器を全廃させようとする運動の一助になることをめざして、このリーフレットを作成しました。

21世紀を平和の世紀にしようとして、杉並では、2000年より「平和のための戦争・原爆展inすぎなみ」を開催しました。その後「すぎなみピースフォーラム」と名称をかえ、より広い人々の参加をよびかけながら続けています。

戦後70年を経過し、日本は歴史の岐路にたたされています。その最前線にあるのは沖縄です。「沖縄慰霊の日」でも明らかにされたように、戦争で命を守ることはできません。ビキニ被災から、福島原発から、そして沖縄から学ぶべきは核兵器・原発の廃絶であり、戦争をしないこと。自然を大切にまもること。「命どう宝」です。

2015年8月

〒167-0023 杉並区上井草2-11-15

すぎなみ ピースフォーラム実行委員会 事務局 佐々木 征

ヒロシマ・ナガサキ・そしてビキニ環礁で

広島・長崎に原爆が投下された1945年8月から8年7ヵ月後に3度目の被爆が...。
 1954年3月16日、読売新聞朝刊がこれをスクープ。翌17日、「太平洋マーシャル諸島ビキニ環礁でアメリカが水爆実験を行った...マグロ漁船第五福竜丸が被爆...23名が原子病」とのラジオ放送で、全国民の知るところとなりました。
 この水爆「ブラボー」は、広島に投下された原子爆弾の1000倍以上の巨大な爆発力で、大量の放射性物質を放出しました。日本の遠洋マグロ漁船など1000隻近くが被災・被爆し、日本全土にも放射能の雨を降らせました。



魚屋さんたちが声をあげ、力を結集して立ちあがった

その時、杉並区和田の魚屋「魚健」の菅原健一さんは、営業不振で頭を抱える魚屋さんたちに「政治や経済がわからなくても、安全で安心して食べられる魚を売りたい！...生活と営業を守ろう！...それには米国の水爆実験をやめさせ...遠洋漁場を守ろう！...水爆実験禁止の署名運動をしよう！」と提案、この呼びかけに杉並中の魚商が結集、中野、浅草など各地の魚商たちが応えました。連日連夜、対策会議...ピラと署名簿を作り...即行動...10万枚のピラを配り、各魚屋の店頭には署名簿を置き、家族ぐるみで署名に取り組みました。



3/29「杉並魚商水爆被害対策協議会」を結成。

4/2「買出し人水爆被害対策市場大会」を築地市場講堂で開催。

業者代表530名参加。「米国政府に原水爆実験即時中止・禁止を！全被害の損害賠償を！および日本政府に営業と生活補償を！原水爆禁止決議！」...終了後、米国大使館と日本政府関係各官庁へ陳情請願を行い、大会決議と原水爆禁止署名簿を手渡す。



4/12 杉並魚商水爆対策協議会が「9項目の陳情請願書」を杉並区議会へ提出。

杉並区公民館で婦人たちの思いがひとつになって

4/16 杉並公民館で杉並婦人団体協議会主催の「婦人週間...婦人参政権行使記念講演会」が開かれました。終了間際「魚健」の菅原トミ子さんが震えながら「水爆実験による汚染で魚が売れなくて店を閉めなければなりません。私たち魚商組合で原水爆実験禁止の署名を取り組んでいます。米国水爆実験問題を取りあげてください。」とはげしい口調で訴えました。この訴えに、安井郁公民館館長は「これは、魚屋さんだけの問題ではない。全人類の問題である」と応え、杉並婦人団体協議会は臨時会議を開き、原水爆禁止署名に取り組みむことを決定しました。（杉並婦人団体協議会は、公民館開館直後の1953年11月に社会科学の本の読書会「杉の子会」として発足。安井郁館長を座長に学習会を重ね、1954年1月に42団体加盟の「杉並区婦人団体協議会」へと発展した）



4/17 杉並区議会が「水爆実験に関する決議文」を全会一致で採択。

4/22「決議文」を政府と米・英・仏・ソ連の各大使館へ送付。

5/9「水爆禁止署名運動杉並協議会」結成。議長...安井郁公民館長

「杉並アピール」決定 * 水爆禁止のために 全国民が署名をしましょう！

* 世界各国の政府と国民に訴えましょう！ * 人類の生命と幸福を守りましょう！

杉並区長はじめ区職員や全区議会議員が署名、杉並区役所の窓口に署名簿（英文も）が置かれました。商店街の各商店にはポスター、署名簿が置かれ、思想信条の違いを超えて、区民的規模で空前の大運動へと発展していきました。

杉並婦団協の人たちは杉並公民館を拠点に、署名簿の整理・集約等を担いました。高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪の4駅一っせい駅頭署名には行列ができ、13,219筆も集まり、婦人たちの大きな確信となりました。小沢清子さん、小沢綾子さんはじめ、多くの人たちが手弁当で署名活動を大躍進させました。



杉並から全国へ

原水爆禁止署名運動は、杉並から日本の津々浦々へ、そして世界の国々へと急速に広まり、幅広い平和運動へと発展していきました。



8/8「原水爆禁止署名運動全国協議会」結成。事務局は杉並協議会

杉並署名数...285,000名（杉並区人口39万人の約7割強）

9/23 第五福竜丸無線長の久保山愛吉氏訃報「原水爆の被害者は私を最後にしてほしい」...その遺志は原水爆禁止運動の急速な進展へとつながる。

全国署名集計..... *1954年12月 22,074,228名 *1955年8月 30,404,985名

1955年6月7日「第1回日本母親大会」開催。

...生命を生き育てる母親は、原水爆禁止で生命・食・暮らしの安全安心と平和を守ることを誓う...

1955年8月6日「第1回原水爆禁止世界大会」が広島で開催される。

14カ国・3団体から52人、日本各地からの代表2,575人が参加。

全世界へと響き伝わる杉並の声

1954年3/21~3/25 ウィーンの世界平和評議会で平野義太郎氏（日本平和委員会）が欧州で初めて、第五福竜丸の被爆実相を訴えました。各国の新聞が報道。抗議の声が全世界に広がりました。

1954年5/24~5/26 ベルリンの世界平和評議会特別総会で柳田謙十郎氏（哲学者）は「原子兵器禁止を求める運動が、いま、日本全国に広がって、短期間で数万人の原水爆禁止署名を集めた」と水爆禁止署名運動杉並協議会の活動を報告すると、満場に感銘を与え、翌日諸新聞の報道で原水爆禁止の声は全世界へと響き伝わっていきました。

